

Infection

病原体の感染経路

●：臨床的に最も重要
▲：ときにみられる or よくみられてもあまり重要でない
×：ほとんどみられない

	病原体	胎内感染		分娩時感染		授乳時感染
		経胎盤感染	上行性感染	経胎盤感染	産道感染	母乳感染
ウイルス	風疹ウイルス	●	×	×	×	×
	サイトメガロウイルス (CMV)	●	×	×	▲	▲
	ヒトパルボウイルス B19	●	×	×	×	×
	水痘・带状疱疹ウイルス (VZV)	▲	×	×	●	×
	単純ヘルペスウイルス (HSV)	▲	▲	×	●	×
	尖圭コンジローマ (HPV6型, 11型)	×	×	×	●	×
	B型肝炎ウイルス (HBV)	▲	×	▲	●	×
	C型肝炎ウイルス (HCV)	▲	×	▲	●	×
	ヒト免疫不全ウイルス (HIV)	▲	▲	▲	●	▲
	成人T細胞白血病ウイルス 1 型 (HTLV-1)	▲	×	×	×	●
細菌	梅毒トレポネーマ	●	×	×	▲	×
	淋菌	×	×	×	●	×
	B群溶血性レンサ球菌 (GBS)	×	×*	×	●	×
真菌	カンジダ・アルビカンズ	×	×	×	●	×
原虫	トキソプラズマ	●	×	×	×	×
クラミジア	クラミジア・トラコマチス	×	×	×	●	×

*前期破水時には、上行性感染を認める。

母乳感染

母乳が 当たる Hな CM

母乳が	母乳感染
当たる	ATL（成人T細胞白血病ウイルス）
Hな	HIV
CM	CM（サイトメガロウイルス）

経胎盤感染

To	Toxoplasma
R	Rubella
C	CMV
B	B19V
S	Syphilis

Toxoplasma 2

Etiology
○ 経胎盤感染

Rubella 10

風疹HI抗体価

< × 8	なし	感染(-), ワクチン接種(-)
× 8-16	低い	感染/ワクチン接種(+) 抗体価が低下

CMV 6

サイトメガロウイルス (CMV) 母児感染

日本人妊婦の抗体保有率は減少傾向にあり、20代女性で70%程度である。
成人へのCMV感染は多くの場合無症状である。
妊婦が初感染した場合の子宮内感染率は4%。うち10%が出生時より顕性感染（先天性巨細胞封入体症；小頭症，網膜症，白内障，血小板減少，肝脾腫）を呈する。
後期発症型でも難聴，発達遅滞の原因となり，高度難聴児（1,000人/年/日本）の15%，原因不明の

× 32-128	nl	感染 / ワクチン接種
≥ × 256	高い	現在, 最近感染 1-2w後に再検査 感染/ワクチン接種の既往

Etiology

- 胎盤感染

Exam

- 胎児 尿中

Treatment

- ただちに届出

Syphilis 3

梅毒合併妊娠

①梅毒のごく初期でもSTS (+), TPHA (-) となるので, FTA-ABS IgMの定性を行う。これが (-) ならばBFPである。

②梅毒は胎盤が完成する妊娠16週までは胎児感染は起こらない。

③梅毒の胎児への感染は胎盤完成後（経胎盤感染）であり, 分娩前6週間以内に感染したものは胎児への感染はない。

Parrot仮性麻痺

先天梅毒

長管骨に肉芽, 疼痛, 腫脹

上肢, 下肢を動かさない

おむつ交換時に痛みのために泣く

GBS 5

Treatment

- ペニシリン

発達遅滞児の25%が先天性CMV感染であると推定されている。

抗ウイルス薬（ガンシクロビル；GCV）や抗CMV抗体による胎内治療の試みはあるが, 有効性, 副作用や経費など問題が多い。

HSV 4

Symptom

- 胎児 神経学的な後遺症

Treatment

- C/S 適応

TORCH 3

TORCHs

Toxoplasma

- 脈絡網膜炎
- MR
- 脳内石灰化
- 水頭症

Rubella

- 白内障/緑内障
- PDA
- 感音性難聴

Cytomegalo

- 脳内石灰化
- MR
- 難聴

Herpes

- 水疱疹
- 脈絡網膜炎/角結膜炎
- 小頭症

Syphilis

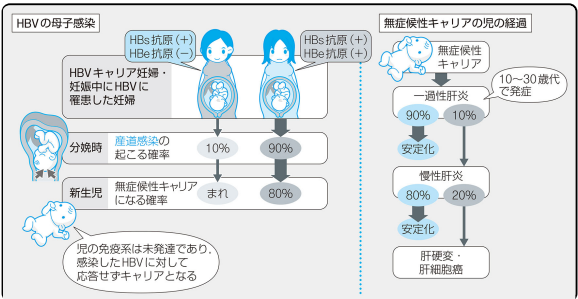
- Parrot仮性麻痺
- 鼻閉
- 胎児水腫

HBV 4

B型肝炎ウイルス（HBV）の感染と経路

妊娠中のB群レンサ球菌（GBS）の取り扱い

1. 妊娠33～37週に膣周辺の培養検査を行う。
2. 以下の妊婦には経膣分娩中あるいは前期破水後、ペニシリン系薬剤静注による母児感染予防を行う。
 - 前児がGBS感染症（今回のスクリーニング陰性であっても）
 - GBS陽性妊婦（破水/陣痛のない予定帝王切開の場合には予防投与は必要ない）
 - GBS保菌状態について不明の妊婦



HCV 1

HCV ab(+) 妊婦

HCV ab(+) ⇒ RT-PCR

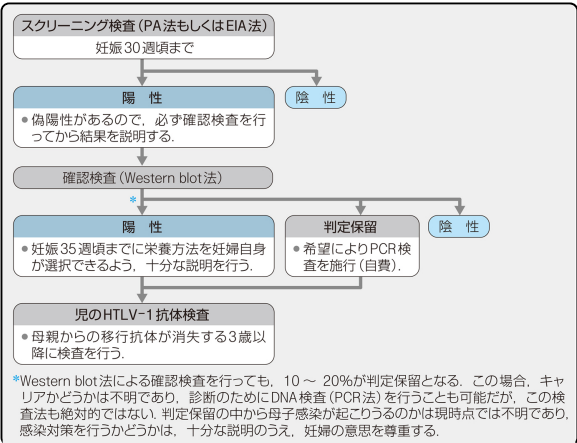
⇓

RNA(-) ⇒ 母子感染のリスク(-)

RNA(+) ⇒ 母子感染のリスク 10%
⇒ C/S

HTLV-1 3

HTVL-1の予防対策の流れ



HIV 3

HIV感染妊婦の管理

妊婦自身の治療

- ZDV(ジドブジン) PO

母子感染

- C/S
- 新生児のZDV投与
- 完全人口乳保育

医療従事者の感染防止

Mumps 1

Symptom

- 母体 発熱

膣炎をきたす病原体とその特徴

	トリコモナス	カンジダ	クラミジア	一般細菌
病原体	Trichomonas vaginalis (原虫)	Candida albicans (真菌)	Chlamydia trachomatis Chlamydia pneumoniae など (細菌)	大腸菌 クレブシエラ ブドウ球菌 腸球菌 B群連鎖球菌

など

帯下	多量，泡沫状	酒粕様	漿液性	膿性
産道感染	垂直感染 (ただし通常自然治癒)	鷺口瘡	トラコーマ結膜炎 新生児肺炎	新生児肺炎 髄膜炎
治療	メトロニダゾール	オキシコナゾール	抗菌薬	抗菌薬
感染	性行為感染	外陰部や膣の常在菌 (性行為感染もあり)	性行為感染	直腸や外陰部の常在菌
原因/好発	性行為	妊娠 ピル 糖尿病 抗菌薬	性行為	老人 小児
上行感染	(-)	(-)	(+)	(+)
その他	虫体の直接鏡検（生食）で証明 虫体は白血球より大 腔上皮より小	顕微鏡（KOH）で偽菌糸の証明	卵管炎により不妊 子宮外妊娠の原因ともなっている 急性付属器炎	妊娠中は上行感染で絨毛膜羊膜炎から前早期破水の原因に

Quiz

24 Qs / {#} 24 (#)